

事業所名 グループホームゆうゆう館
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成19年 7月18日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 高等学校非常勤講師
資格・経験 看護師、助産師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター
B:現職 簡易郵便局経営
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、要介護認定調査員

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る (改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・児島湾に面した場所に立地し、近くには国立公園があり、四季の変化が感じられる自然の環境に恵まれている。交通量も少なく、静かで落ち着ける環境である。
- ・すぐ近くに、1ユニットずつの同法人のグループホームが2ヶ所ある。職員は、お互いに情報交換や意見交換をしながら、サービスの質の向上に向けての取り組みを行っている。特に、事故やヒヤリハットについては、法人の職員全員で原因・対策を考え、発生を防いでいこうとする取り組みが見られる。
- ・入居者にとってのなじみの関係作りを重視しつつも、入居者の状況や職員の経験等を考慮しながら、必要時には法人内で職員の配置換えを行い、入居者にとっての良い環境づくりを考慮している。
- ・散歩の機会などを通して、農業を営む地域住民との交流も図れている。収穫した野菜を持って訪れてくれる方もいる。広報紙で、各家庭で使わなくなった物品の提供を呼びかけたのをきっかけに、手作りの作品を持って訪問してくれる方もある。
- ・管理者は、他の職員の見本になるようにとの思いで、日々の介護に当たっている。両ユニットの管理者とも、笑顔を絶やさず、入居者からも慕われている様子がうかがえた。
- ・入居者同士、お互いに助け合って仲良く暮らしている様子がうかがえた。家族の面会を楽しみにしていることを共に喜んだり、お互いに声を掛けあったり、励ましあったりして、和やかに暮らしている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

- ・職員は、認知症の介護について熱心に取り組んでおり、入居者や家族が希望すれば看取りもしたいと考えている。しかし、認知症の介護について医師に相談できる体制がまだ十分とは言えない。夜間・休日に対応してもらえる医師の確保も、今後の課題と考える。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に入居者に寄り添い、やさしい介護、相手の立場に立った介護の実践をめざしている。一人ひとりの入居者が、尊厳を守られ、その人らしく生活しているよう支援している。 ・家庭的な環境の下、能力に応じて自立した生活ができるように、生活歴や家族背景を把握して、個別のケアをめざしている。体験を生かすことはもとより、潜在する能力を引き出す努力もしている。 ・入居者の心の安定が図れる方法について、さまざまな工夫を試みている。問題行動を減らすために、職員と一緒に「故郷帰りをしたり、「眺み聞かせ」などを実践している。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者が、ある金融機関で見つけた「少女女の詩」の眺み聞かせをし、精神の安定を図るようにしている。入居者にも喜ばれ、涙を流しながらじっと聞き入っている方もあるとのことである。 ・帰宅願望のある方に対しては、徘徊のあるときには、そっと後を付いて見守りをしている。外泊など「故郷帰り」もしてもらっているが、ホームのほうで落ち着くからと、早めに切り上げてくる方もある。 ・入居者によっては自宅に帰るとかえって混乱する方もあり、家族とホーム内で一緒に過ごす機会を作っている。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることに配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりの力が発揮できるようなことを見つけるようにしている。たとえば、入居者の口から素敵な言葉が一句出ると、壁に掲示するようにしている。詩や、川柳、絵が好きな方には書いてもらうようにしている。 ・できることはできるだけ自分でしてもらうようにしている。たとえば、洗濯物を自室に持って入ってたたんで貰うと、洗濯の終わったものと一度着たものが混ざることがあるが、職員は入居者が一人であることを大切に、後でさりげなく直している。 ・入居者の居室に入るときには、入室していなくても必ずノックと声かけをするようにしている。 ・入居者に対する声かけは、尊厳やプライバシーに配慮し、傷つけないように気をつけている。また、他者に知られて恥ずかしいことに対しては、特に注意して隠すように配慮している。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアサービスの質の向上に向け、機会があれば外部の研修にも参加できるようにしている。参加者は、報告書を提出し、他の職員にも読んでもらっている。 ・職員は、介護福祉士等の資格取得に対する意欲があり、日々研鑽している。 ・ヒヤリハットや、事故報告書は、法人内の他の部署とも情報交換し、事故防止、再発防止に向けて努力している。 		